



室戸ジオパークだより

アジア太平洋ジオパーク会議 (APGN2019) 参加記

地理専門員: 中村有吾



ジオツアーで村人の歓迎を受ける

9月2日、何度も来たはずのジャカルタ国際空港で、1時間も迷ってしまった。インドネシアは「発展している」国だ。知ってるつもりは良くない。その様子は「刮目して」見よう。

翌日、飛行機でさらに2時間の位置にあるロンボク島へ移動。ヤシの木、バナナの木を見ながら、1時間弱のドライブでマタラムという都市に着く。中心街のホテルが会議場である。昼食をかきこみ、会議室へ。さっそく自分の発表がある。室戸ではジオパークとして様々な災害に対処していかなければならない、という話をしたのだが、私の拙い英語で通じただろうか。幸い座長は、2か月前に室戸の再審査に来てくださったエルガさんだ。室戸の問題点をよくご存じて、何とか理解していただけたと思う。

翌日は、ロンボク島のジオパークを視察。火山を見るジオツアーだったが、去年のロンボク地震で倒壊した家屋と、急速に進む復興工事の様子が印象的だった。会議の後半には、ロンボク地震以降のジオパーク活動について、現地スタッフの発表があった。会議後に、いくつかの疑問点を個人的に尋ねると、誠実に答えてくれた。ジオパークへの情熱まで伝わってくる。

ジオパークができたことで、インドネシアは、地域の連携と活動を推進するための確実なツールを手に入れたと思う。ジオパークを通じて、地域を盛り立てようとするエネルギーが伝わってくる。私たちが学ぶべきことは多い。

ジオパークネットワークの中の室戸高校

国際文化専門員: 小笠原 翼



ランカウイ訪問団勉強中!!

室戸ジオパークにある唯一の高校、室戸高校。実は最近ジオパークの持つネットワークを活用して、生徒達を積極的に室戸外の地域に送り出しています。主に室戸と同じく、ユネスコ世界ジオパークに認定されている場所にある高校と交流しています。生徒達はまず、室戸ジオパークがどのような場所であるのかを知ることから始めます。その後交流先のジオパークと、そこに住む同世代の高校生がどのような生活をしているのかを、直接訪問するなどして情報収集します。

現在室戸高校の複数の生徒達が、11月に大分県で開催されるジオパーク全国大会と、マレーシア・ランカウイ(姉妹ジオ)で実施予定の交換留学プログラムに参加するべく準備中です。9月初旬にインドネシアで開催されたアジア太平洋地域のジオパークが集うシンポジウムには、室戸高校の教頭先生も参加し、アジア圏にあるジオパーク地域と室戸高校との将来的な交流の可能性について話し合いました。「ジオパークの世界的ネットワークは、生徒達の学びの可能性を広げてくれる。ジオパークと協働することで生徒達は国際交流の分野でも躍進していくことができる」というのは、教頭先生の言葉。室戸高校卒業生の一人として、現役高校生の選択肢を広げるお手伝いをできていることを誇りに思います。

<お問い合わせ先>

室戸ジオパーク推進協議会 〒781-7101 室戸市室戸岬町 1810-2

TEL: 0887-22-5161 FAX: 0887-23-1618 Email: info@muroto-geo.jp <http://www.muroto-geo.jp/>

(裏面もご覧ください)